

川崎近海汽船

本店：東京都千代田区霞が関一丁目4番2号

【商号履歴】

川崎近海汽船株式会社（1966年4月30日～）

【株式上場履歴】

<東証2部>1995年3月14日～

【合併履歴】

1992年4月 日シルバーフェリー株式会社

【沿革】

昭和41年5月 **川崎汽船**(株)の内航部門の全航路および全船腹の運航を継承し、神戸市生田区に川崎近海汽船株式会社を設立。

昭和43年10月 **川崎汽船**(株)より、日本ノインドシナ定期航路の移管を受け近海部門に進出。

昭和44年4月 **川崎汽船**(株)より、ソ連ノ日本の北洋材、加里、石炭輸送および中国ノ日本の肥料、工業塩等近海不定期航路の航権移譲を受ける。

昭和44年4月 子会社兵庫汽船(株)を設立。

昭和45年4月 **川崎汽船**(株)より、日本ノサバ・サラワク定期航路の運営の移管を受ける。

昭和45年10月 日本近海汽船(株)を吸収合併。同時に同社子会社(有)春徳汽船(現 春徳汽船(株))を継承。

昭和45年10月 **川崎汽船**(株)より、南洋材配船権の一部移管を受ける。

昭和45年11月 香港・海峡地定期航路を開設。

昭和46年11月 八戸ノ苫小牧間に旅客フェリー事業を開始する目的で、シルバーフェリー(株)を設立。

昭和48年4月 **川崎汽船**(株)より、南洋材の配船権を全面的に継承。

昭和50年3月 東京ノ苫小牧貨物フェリー事業の許可を取得。

昭和50年4月 本社を神戸市生田区より東京都千代田区東京海上ビルに移転。

昭和50年10月 日本沿海フェリー(株)(現 商船三井フェリー(株))と共同運航により東京ノ苫小牧貨物フェリー事業を開始。

昭和52年4月 子会社(有)五洋海運商会(現 (株)五洋海運商会)を設立。

昭和58年7月 本社を千代田区飯野ビルへ移転。

昭和59年6月 日立ノ門司にコンテナ船の配船開始。

昭和60年11月 日立ノ門司コンテナ航路強化のため、菱化海運(株)(現 三菱化学物流(株))と提携し、共同配船とする。

昭和61年4月 **川崎汽船**(株)より、バンコク在来船定期航路の移管を受け配船開始。

昭和62年4月 日吉興産(株)(現 新洋興産(株))の全株式を取得し、子会社とする。

昭和63年12月 シンガポール駐在員事務所を現地法人化(現 “K” LINE KINKAI(SINGAPORE)PTE LTD)。

平成3年12月 旭汽船(株)の株式を追加取得し子会社とする。

平成4年4月 シルバーフェリー(株)を吸収合併。同時に同社子会社シルバーサービス(株)を継承。八戸ノ苫小牧旅客フェリー事業を継承すると共に両社の事業所を統合し北海道支社、八戸支社及び

苫小牧支店を設置。

平成4年10月 釧路事務所(現 釧路支店)を設置。

平成5年7月 釧路 / 日立定期航路を開設。

平成7年3月 東京証券取引所市場第二部に株式を上場。

平成11年9月 パナマ籍子会社 TROPICAL LINE S.A. を設立。

平成11年11月 日南事務所を設置。

平成11年12月 日南 / 大阪 / 東京定期航路を開設。

平成12年1月 旭汽船(株)と兵庫汽船(株)が合併し、旭汽船が存続会社となる。

平成12年1月 パナマ籍子会社 ASIA SHIPPING NAVIGATION S.A. を設立。

平成12年9月 東マレーシアに現地法人 KAWASAKI KINKAI KISEN KAISHA(M)SDN BHD(現 “ K ” LINE KINKAI(MALAYSIA)SDN BHD)を設立。

平成13年1月 春徳汽船(株)と(株)ケイ・スリー・サービスが合併し、春徳汽船が存続会社となる。

平成13年7月 常陸那珂 / 苫小牧航路においてスペースチャーター方式によるデイリーサービス開始。

平成15年11月 パナマ籍子会社 MARINE VICTOR SHIPPING S.A. を設立。

平成16年7月 本社を千代田区大同生命霞が関ビルへ移転。

平成18年6月 日立 / 北九州定期航路を開設。